

Express5800/R110m-1M ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用にあたり、ご注意いただきたいことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時の注意事項
- 3) システムROMの機能に関する注意事項
- 4) iLO7の機能に関する注意事項
- 5) OSに関する注意事項
- 6) 全般の機能に関する注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、「3170103056」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト <https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンを確認し、利用してください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-014.02 以降を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-014」を検索)

● VMware ESXi/ESXのドライバー・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi/ESX のドライバー・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

・ Agentless Management Service

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示される「iLO7 FW X.XX.XX 以上専用 Agentless Management Service (VMware ESXi/ESX 8.0/9.0 版)」を適用してください) (X.XX.XX は数字)

・ MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「PC サーバ/ブレードサーバ (Express5800 シリーズ)」の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」から対象 OS と対象 Starter Pack の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」を選択)

・ VMware ESXi/ESX デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ (Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

● Intel (R) Virtual RAID on CPU (VROC)について

本製品では現時点で VROC は未サポートとなります。

ユーザーズガイド等各種ドキュメントに VROC についての記載がありますが、VROC は使用しないでください。

● Linuxのサポートについて

RHEL のサポート状況については、以下の Web サイトを参照してください。

Linux サービスセット対応モデル

<https://jpn.nec.com/linux/linux-os/ss/model.html>

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバーの組み合わせによっては、保守作業に時間を要する場合があります。

2) 装置起動時に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、まれに「Memory Initialization - Start」のメッセージを表示し、POST 停止することがあります。本事象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- ① 本体装置前面の POWER スイッチ (または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン) を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- ② 本体装置前面の POWER スイッチ (または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン) を押して、本体装置が正常に起動することを確認してください。
- ③ 再度「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し、正常に起動することを確認してください。(※)
SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※) システム再起動後に Serial Number、Product ID が消失している場合は、メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.10 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

事象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
```

```
Early system initialization, please wait...
```

```
System Chipset Initialization
```

```
UPI Link Initialization - Start
```

```
UPI Link Initialization - Complete
```

```
Early Processor Initialization
```

```
Memory Initialization - Start
```

3) システムROMの機能に関する注意事項

● システムユーティリティ上の内蔵DVDドライブの表示について

システムユーティリティ上で、内蔵 DVD ドライブの名称が正しく表示されません。
本事象は表示のみであり、機能に影響はありません。

※ 正しい内蔵 DVD ドライブの名称は、Windows OS のデバイスマネージャーで確認できます。
Linux OS の場合は「lsusb -v」コマンドにて確認できます。

● Minimum Processor Idle Power Core C-Stateオプション、およびMinimum Processor Idle Power Package C-Stateオプションの注意事項

以下の設定は工場出荷時のまま使用してください。

設定を変更した場合、訂正不可能なマシンチェック例外やPCI Expressエラーが発生し、システム停止に至ることがあります。

・ 対象設定および工場出荷時の設定

- Minimum Processor Idle Power Core C-State : No C-States
- Minimum Processor Idle Power Package C-State : No Package State

・ 設定箇所

「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State」

「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State」

また、Workload Profileオプションを以下の設定へ変更した場合にも、上記2項目の設定が変更されることがあります。

- ・ General Power Efficient Compute
- ・ General Peak Frequency Compute
- ・ General Throughput Compute
- ・ Virtualization – Power Efficient

Workload Profileオプションの設定変更後に上記2項目の設定を確認し、設定が変更されていた場合は、必要に応じてWorkload Profileを[Custom]に設定したうえで、No C-States、およびNo Package Stateへ再設定して使用してください。詳細は、メンテナンスガイド(共通編)の「2.3.6ワークロードプロファイルの設定時の依存オプションについて」を参照してください。

4) iL07の機能に関する注意事項

● iL0の再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iL0の再起動(※1)を行わないでください。

- ・ サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST実行中も含む)。
- ・ システムユーティリティの操作途中。

(※1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiL0の再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

該当タイミングでiL0の再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST実行中にiL0の再起動を行うと、iL0 Webインターフェイスの「Information > Overview」ページにおけるUUID、UID(論理)の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更などの操作の途中でiL0の再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)で「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合(※2)や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失(※3)してしまう場合があります。

もし上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、一度本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。本体装置の電源オフ/オン後も再発する場合は(※2)、(※3)に従って復旧してください。

＜対象となるiL0の再起動の方法＞

- ・ iL0 Webインターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiL0の再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiL0の再起動。

(※2) システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※3) メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.10 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

● iL0のダウングレードポリシー機能の注意事項

iL0の拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security > Access Settings > Update Service > Downgrade Policy」の設定を[Permanently disallow downgrades]に変更しないでください。

[Permanently disallow downgrades]に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、「Set to factory defaults」からiL0を出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他のiL0の各種インターフェイスや各種ユーティリティから設定変更を試みても、[Permanently disallow downgrades]設定は維持されたままになります。

● iL0 Webインターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項

RBSUの設定やiL0の設定の内容によって、iL0 Webインターフェイスのダッシュボードやセキュリティにおいてリスク(赤色)が表示される場合があります。

「Security > Overview > Security Parameters」にて構成の内容を確認することができますので、お客様のセキュリティポリシーに応じて適切なセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iL07ユーザズガイドを参照してください。

iL0の負荷の状態により「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が『リスク』であっても、iL0 Webインターフェイス画面の右上部の「iL0セキュリティ」アイコンが無色になる場合があります。

「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が現在のセキュリティ状態を示します。

● RESTful API Errorが発生した場合の対処について

POST実行中、まれに以下のようなRESTful API Errorが表示され、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(※)からのiLOへのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLOの再起動を実施してください。

(※) ESMPRO/ServerAgentService、RAID通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

例 : Severity:Caution、Event Class : 0xA(UEFI)、Event Code:0x333 または 0x338

Description:%1 RESTful API Error - Unable to communicate with %2 FW.

BIOS configuration resources may not be up-to-date.

● iLO WebインターフェイスのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Web インターフェイスの「Dashboard > Host Overview > AMS」において、ステータスが「不明」(または「利用不可能」)(※)と表示されている場合は、Agentless Management Service (AMS)用のアプリケーションアカウントが作成済みであることを確認してください。

Agentless Management Service (AMS)のアプリケーションアカウントを作成していない場合は、下記の Web サイトに掲載されている「Agentless Management Service (AMS)をご使用時の注意事項」の最新版の内容を確認し、アプリケーションアカウントを作成してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-014」を検索)

Agentless Management Service (AMS)のアプリケーションアカウントを作成している場合でも AMS のステータスが「不明」(または「利用不可能」)(※)と表示されている場合は、iLO の再起動を実施してください。その後、10 分程度経過してから、以下の Agentless Management Service (AMS)の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

<Agentless Management Service (AMS)の再起動方法>

・ Windows の場合

「Windows の管理ツール > サービス」で「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動してください。

・ Red Hat Enterprise Linux 9.x の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
```

```
# systemctl restart amsd
```

・ VMware ESXi/ESX 8.0/9.0 の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

(※) Agentless Management Service (AMS)のステータスが「不明」(または「利用不可能」)の場合、iLO が一部の情報を取得できないため、iLO Web インターフェイスの「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers」や「Host > Hardware > Network」の情報が正しく表示されません。また、この影響により、ESMPRO/ServerManager による IML 監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性があります。

● iLO Webインターフェイスでの電源の容量表示について

本製品をAC100Vで使用した場合、iLO Webインターフェイスの「Host > Hardware > Power > Power Supplies > Capacity」に表示される電源の容量が実際の値と異なる場合がありますが、機能に影響はありません。

● iLO WebインターフェイスでのN8104-222/224搭載時のネットワーク表示について

N8104-222 1000BASE-T接続LOMカード(4ch)、あるいはN8104-224 1000BASE-T接続ボード(4ch)を複数枚搭載している場合にiLO Webインターフェイスの「Host > Hardware > Network」で同じ搭載位置に表示される場合がありますが、機能上の問題はありません。

正しい搭載位置は「Host > Hardware > Device Inventory」で確認してください。

● iLO Webインターフェイスでのネットワーク表示について

- ・ iLO7ファームウェアバージョン1.21適用装置では、iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、OS起動後にLANケーブルが未接続の状態では、「リンクステータス」(LinkUp/LinkDown)が正しく表示されない場合があります。
リンクステータスは、OS (Windows Server:ipconfig、Red Hat Enterprise Linux:ifconfig等のネットワーク情報確認ツール) から確認してください。
- ・ iLO7ファームウェアバージョン1.21適用装置では、VMware ESXi/ESXにおいて、ネットワークケーブルの切断等により任意のポートのリンクダウン発生後、リンクステータスが回復した場合、IMLに記録される「All links are down in adapter」(クリティカルイベント)が「At least one of the links is up.」(修正済みイベント)に変更されないことがあります。
iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、いずれかのポートの「リンクステータス」が「OK」と表示されている場合、「At least one of the links is up.」(修正済みイベント)相当の状態であるとみなしてください。

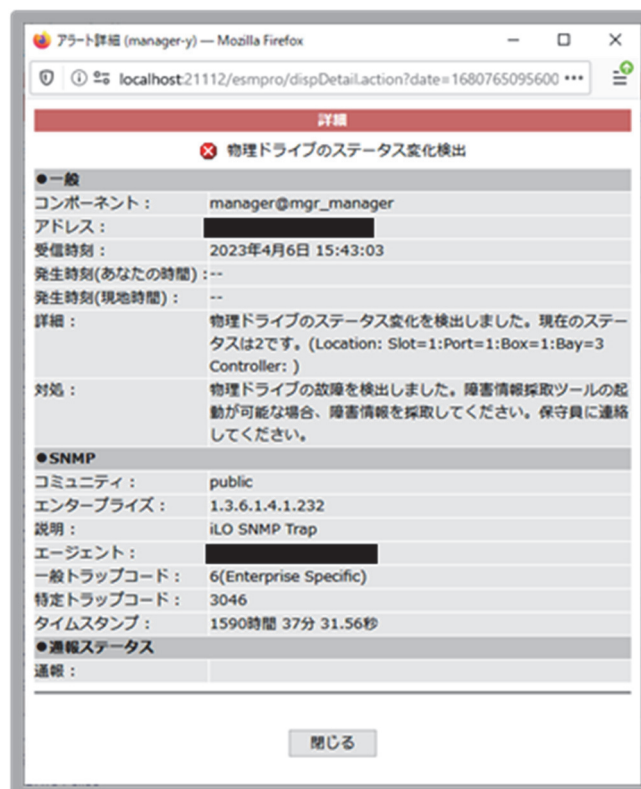
● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障に関するエクスプレス通報は通知されません。

また、ESMPRO/ServerManagerのアラートビューアでは「物理ドライブのステータス変化検出」が通知され、詳細欄にはステータス値「2」が表示されます。

いずれも、iLO7の仕様による動作です。

※ ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



5) OSに関する注意事項

● RAID監視通報方式について

VMware ESXi/ESX において、RAID 監視通報は SNMP Trap を利用してください。
詳細は、下記の Web サイトを参照してください。

- ・ NEC サポートポータル
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● VMware OSご使用時の注意事項

TPM Visibility オプション(※1)を[Visible]に設定して、VMware OS を利用する場合、OS インストール時に生成される Recovery Key を、必ず保管してください。

Recovery Key は、TPM 2.0 Operation オプション(※2)を[Clear]に設定することによる TPM 内部情報のクリアや、保守対応時に必要となります。

- (※1) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility」
- (※2) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > TPM 2.0 Operation」

Recovery Key の詳細については、以下の Broadcom 社のドキュメントを参照してください。

- ・ ESXi 8.0 : セキュアな ESXi 構成の管理—セキュアな ESXi 構成のリカバリ
<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/8-0/vsphere-security-8-0/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html#GUID-30DA8CC1-5D9F-4025-B5DB-6D592B6BD9B4-en>
- ・ ESX 9.0 : セキュアな ESX 構成の管理—セキュアな ESX 構成のリカバリ
<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/9-0/vsphere-security/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html>

6) 全般の機能に関する注意事項

● USB DVDドライブご使用時の注意事項

POSTの実行中またはBIOS/Platform Configuration (RBSU)の操作中にメディア入りUSB DVDドライブを接続するとキーボード・マウスの操作が一時的に行えなくなる場合があります。

キーボード・マウスの操作が行えない場合、約十数秒間経過してから操作を行ってください。

● N8181-224/225 電源ユニットご使用時の注意事項

N8181-224 電源ユニット (650W/100V/Platinum) またはN8181-225 電源ユニット (800W/200V/Platinum) を2台搭載し、冗長電源構成で運用している装置において、起動時にまれに以下の事象が発生することがあります。IMLにメッセージが記録され、iLO Webインターフェイス上に警告が表示されることがありますが、いずれも誤検出であり、電源の冗長機能およびシステム運用への影響はありません。

- ・ IMLのメッセージ例を以下に示します。
 - <誤検出時の例>
Caution, 3178, 964, 0x000B, Power, 0x0015, Power, 02/26/2026 05:46:27, 1828: Mismatched Power Supply Installed
ACTION: If running a redundant configuration, be sure that all of the power supplies in the system have the same spare part number and are supported by the server.
 - <自動復旧時の例>
Repaired, 3178, 2343, 0x000B, Power, 0x0015, Power, 02/26/2026 05:47:43, 1828: Mismatched Power Supply Installed
ACTION: If running a redundant configuration, be sure that all of the power supplies in the system have the same spare part number and are supported by the server.
- ・ POST中に「Caution, Mismatched Power Supply Installed」のメッセージが表示されます。
- ・ 本体装置起動時に、iLO Webインターフェイスの「Dashboard > Host Health > Power Supplies」が「Warning」と表示されますが、数秒後に自動的に「OK」に戻ります。

● N8103-248/249/250 RAIDコントローラご使用時の注意事項

N8103-248/249/250 RAIDコントローラのファームウェアバージョンが以下の場合、複数台のNVMeドライブを接続時に、システムユーティリティのワンタイムブートメニュー(One-Time Boot Menu)において、物理位置を示すBayおよびBox情報が表示されず、ドライブの物理位置を特定できない場合があります。

対象ファームウェアバージョン： 52.30.3-5917

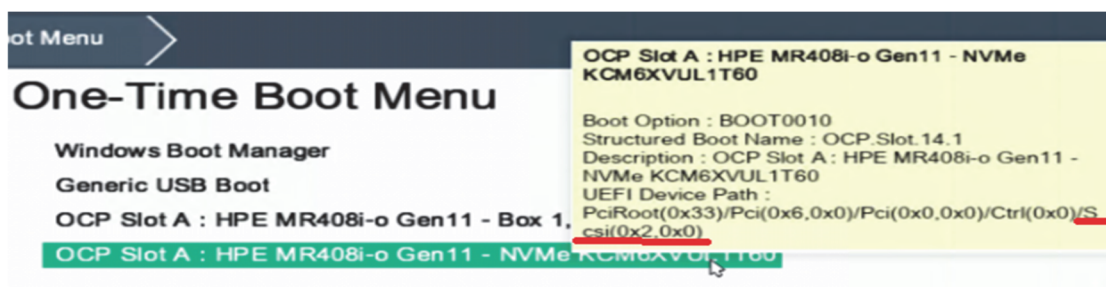
なお、本事象はNVMeドライブ接続時のみ発生し、SASまたはSATAドライブ接続時には発生しません。

また、RAIDコントローラのファームウェアバージョン52.32.3-6333にて改修されています。該当する場合は、ファームウェアのアップデートを推奨します。

<確認手順>

ワンタイムブートメニューでSCSI IDを確認し、iLO WebインターフェイスにてBayおよびBox情報を特定してください。

- ① ワンタイムブートメニューを開き、SCSI IDを確認します。下記例ではSCSI IDが「2」となります。



- ② 次に、iLO Webインターフェイスの「Host > Hardware > Storage > Volumes」に移動し、ボリューム情報を表示します。

(または「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers > (Controller名)」)

- ・ 表示されるボリュームIDは、ワンタイムブートメニューで確認したSCSI IDに対応しています。
下記例では「MR Volume 2」がSCSI ID=2の物理ドライブに対応します。
- ・ 「MR Volume 2-Drives-Location」にてBayおよびBox情報を確認できます。
下記例ではBay=2、Box=1となります。

← Host / Hardware / Storage / Volumes

MR Volume 2

Delete Volume

Details

Name	MR Volume 2	RAID Type	None
State	Enabled	Optimum IO Size Bytes	--
Health	OK	Strip Size Bytes	--
Capacity Bytes	1600321314816	Volume Usage	Data
Block Size Bytes	512	Encrypted	False
Durable Name	600062B213387EC0FF00005C8A498C06	Is Boot Capable	False
Durable Name Format	NAA	Logical Unit Number	--
Display Name	MR Volume 2	Read Cache Policy	--
Initialize Method	--	Write Cache Policy	--
IO Perf Mode Enabled	True		

Drives

Name	Location ^	State	Health	Firmware Version	Capacity	Media Type	Media Life	Encryption Ability	Encryption Status
1.60TB 16.0G NVMe SSD	Slot=14:Port=1:Box=1:Bay=2	Enabled	OK	GPk8	1.6 TB	SSD	99%	None	--

● N8115-45 トップカバーオープン検知キットご使用時の注意事項

N8115-45 トップカバーオープン検知キットは、装置のトップカバーが開かれても、POSTで警告メッセージを表示しません。

トップカバーが開かれたことを検知すると、サーバーのHealth Statusが警告に変化し、ステータスランプがアンバー色で点滅、および、以下のイベントがIntegrated Management Log (IML)に記録されます。

イベントを参照して、トップカバーの開閉の有無を確認してください。

例：“Caution”，0x0002，“Machine Environment” 0x002F，Intrusion Alert Detection – The server chassis hood is currently not installed.”

あるいは、

“Caution”，0x0002，“Machine Environment” 0x0071，Intrusion Alert Detection – The server chassis hood was removed XXXX.”

● PCIカードの取り付けに関する注意事項

PCIカードを本体装置に取り付ける際は、PCIスロットに差し込んだ後、PCIカードまたはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されているPCIカードはネジで固定しています。

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

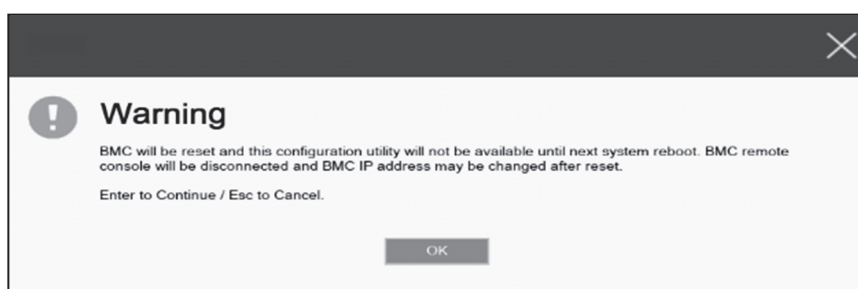
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization – Start」のメッセージでPOSTが停止したり、対象サーバーに記録されているSerial Number、Product IDなどが消失することがあります。

「Memory Initialization – Start」のメッセージでPOST停止した場合は、システムメンテナンススイッチSW6にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。

SW6の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4システム設定情報の初期化」＞「7.4.2システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

Serial Number、Product IDなどが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」＞「5.10補足事項」＞「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の項目を参照してください。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning(注意)ポップアップが表示されます。

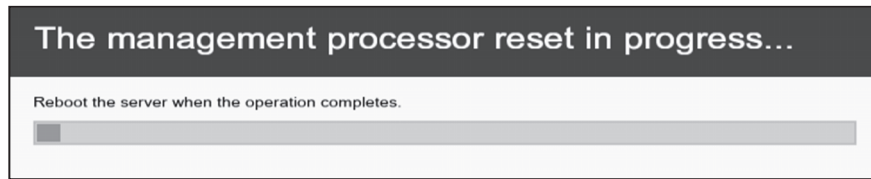


英語表示の場合



日本語表示の場合

- ② 「OK」を押して進めます。
- ③ iLOの再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態では、何も操作を行わず、必ず3分以上お待ちください。
3分以内にプログレスバーが終了した場合でも、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ④ 3分以上経過後、以下を確認します。
- A. 本体装置操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
・ iLOが再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅(毎秒1回)
・ iLOの再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- B. リモート(iLO Webインターフェイス)操作時
対象サーバーのiLO Webインターフェイスにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- ⑤ ④において、iLOの再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ってください。
- ⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R)は米国Intel Corporationの登録商標です。

Linux (R)は、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat (R)、Red Hat Enterprise Linux (R)は米国Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がある場合は、下記のファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

* CBZ-067006-001-02*

2026年6月 第3版